

令和7年度北九州市高齢者等実態調査
報告書

令和8年3月
北九州市保健福祉局

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査対象の基本属性	3
1. 基本事項	3
2. 介護の要因	5
3. 同居人	6
4. 住居	7
第3章 共通設問の調査結果	8
1. 健康・医療	8
2. 介護予防	16
3. 生きがい・社会参加	19
4. 就労	24
5. 医療や福祉、介護などの情報収集	27
6. デジタル活用	28
7. 地域との関わり・支援の状況	33
8. 終活	36
9. 認知症	40
10. 虐待・権利擁護	48
11. 地域包括支援センター	52
12. 介護保険制度	53
13. 保健・福祉サービスの利用意向	56
14. 介護保険の負担に対する考え方	61
15. 生活環境	62
16. 暮らし向き	64
17. 高齢者	65
18. 高齢者福祉施策	66
19. 子育てと介護(ダブルケア)	70
第4章 在宅高齢者の介護者	74
1. 主な介護者	74
2. 介護の状況	79
3. 高齢者の虐待	85
第5章 施設入居者の状況	87
1. 入所前の家族状況	87
2. 施設サービスの利用状況	87
3. 施設での生活全体の印象	91
【参考】	
調査票	92

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関するニーズ、意識及び実態を把握することで今後の高齢社会対策を進めるうえでの基礎資料を得ること目的に実施した。

2. 調査対象者

(1) 一般高齢者 *『一般高齢者』『一般』と表記

令和7年10月1日現在、北九州市在住の高齢者(65歳以上)の中から無作為に抽出した3,000人
*ただし、要支援・要介護認定を受けている方を除く

(2) 在宅高齢者 *『在宅高齢者』『在宅』と表記

令和7年10月1日現在、北九州市在住で、介護保険の要支援・要介護の認定を受けている在宅高齢者(65歳以上)の中から、無作為に抽出した3,600人

(3) 施設入所高齢者 *『施設入所者』『施設』と表記

令和7年10月1日現在、北九州市内の介護保険施設に入所する施設入所者の中から無作為に抽出した600人

(4) 若年者 *『若年者』『若年』と表記

令和7年10月29日現在、北九州市在住の40歳～64歳の市民から無作為に抽出した3,000人

3. 調査方法

郵送による配布回収

※若年者は、郵送またはインターネットによる回答

4. 調査実施期間

令和7年12月1日～令和7年12月31日

5. 回収状況

(1) 一般高齢者	: 配布票数 3,000	有効回収票数 1,800	有効回収率 60.0%
(2) 在宅高齢者	: 配布票数 3,600	有効回収票数 1,507	有効回収率 41.8%
(3) 施設入所高齢者	: 配布票数 600	有効回収票数 279	有効回収率 46.5%
(4) 若年者	: 配布票数 3,000	有効回収票数 1,265	有効回収率 42.1%

6. 調査・集計・分析機関

【調査主体】北九州市保健福祉局長寿社会対策課

【集計分析】株式会社プラスアドグループ

7. 集計分析上の注意事項

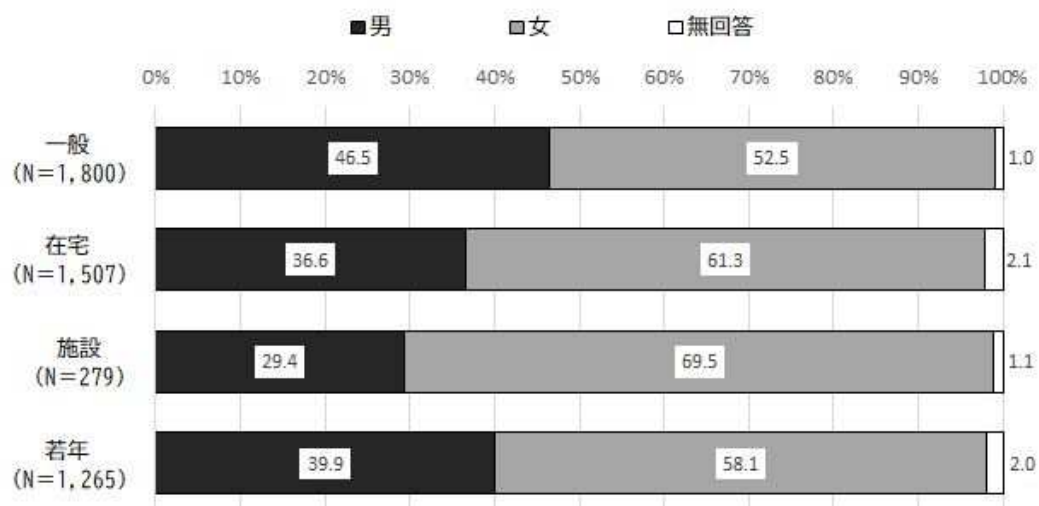
- ・ 図表においては、回答者の数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の設問については、合計が100%を超える場合がある。

第2章 調査対象の基本属性

1. 基本事項

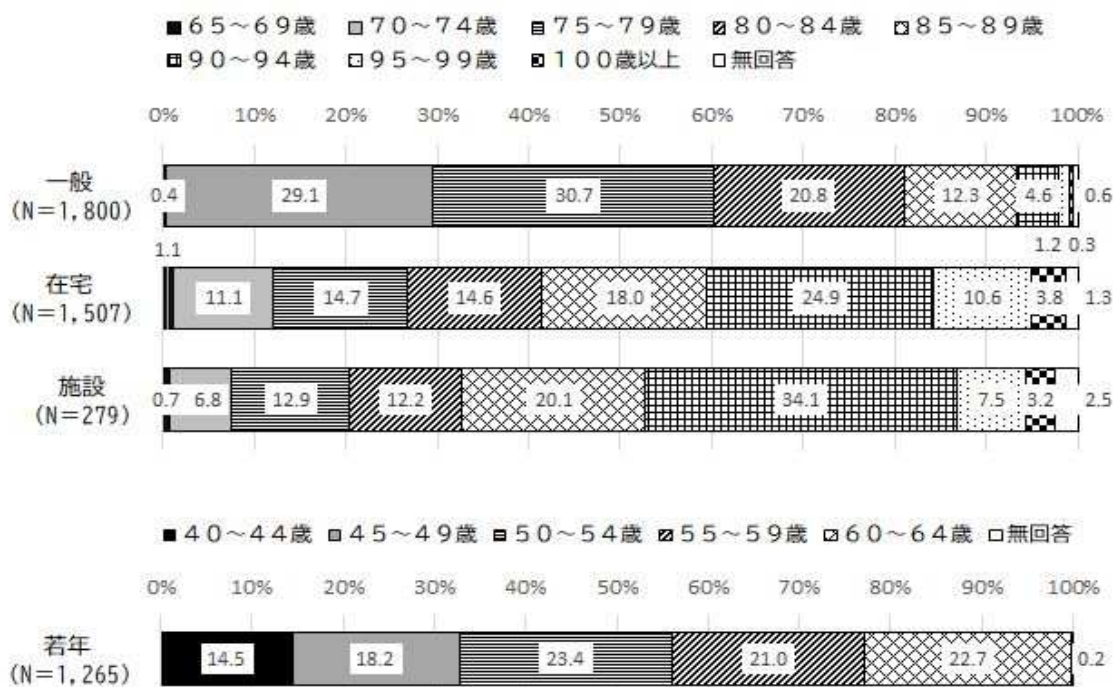
(1) 性別

回答者の性別をみると、いずれの調査でも女性が多く、施設入所者では69.5%が女性となっている。

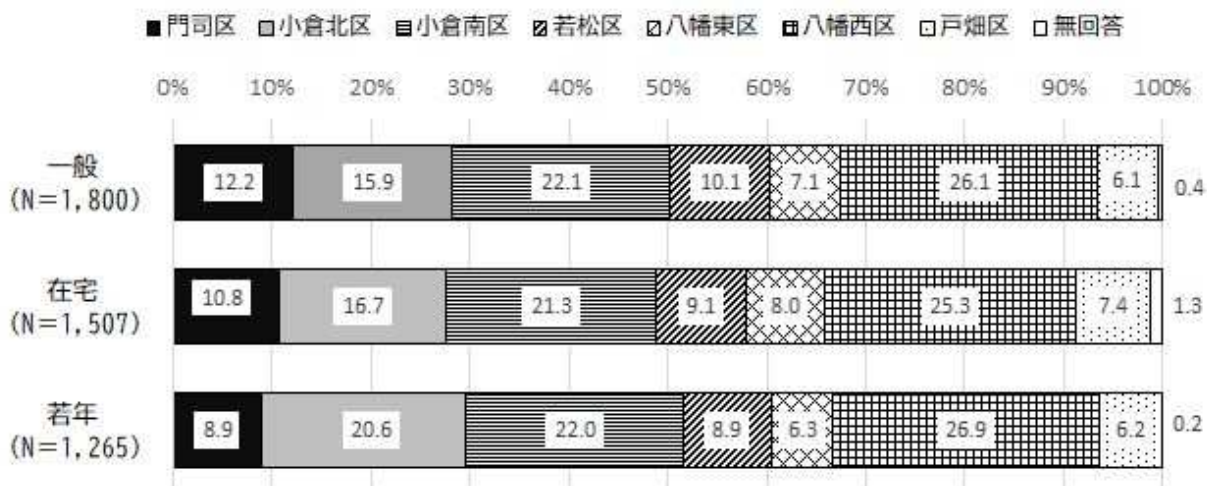


(2) 年齢

回答者の年齢をみると、一般高齢者では、75～79歳の割合が30.7%、在宅高齢者では、90～94歳が24.9%、施設入所者では、90～94歳が34.1%と最も多くなっている。若年者では、50～54歳が23.4%と最も多くなっている。



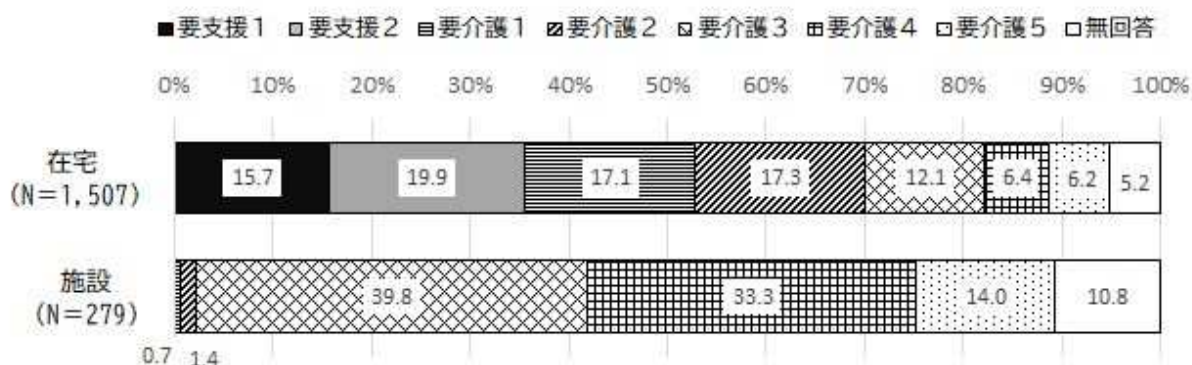
(3) 住所区



(4) 要介護度

要介護度についてみると、在宅高齢者では「要支援2」が19.9%と最も多く、次いで「要介護2」が17.3%、「要介護1」が17.1%、「要支援1」が15.7%となっている。

施設入所者では「要介護3」が39.8%と最も多く、次いで「要介護4」が33.3%、「要介護5」が14.0%となっている。



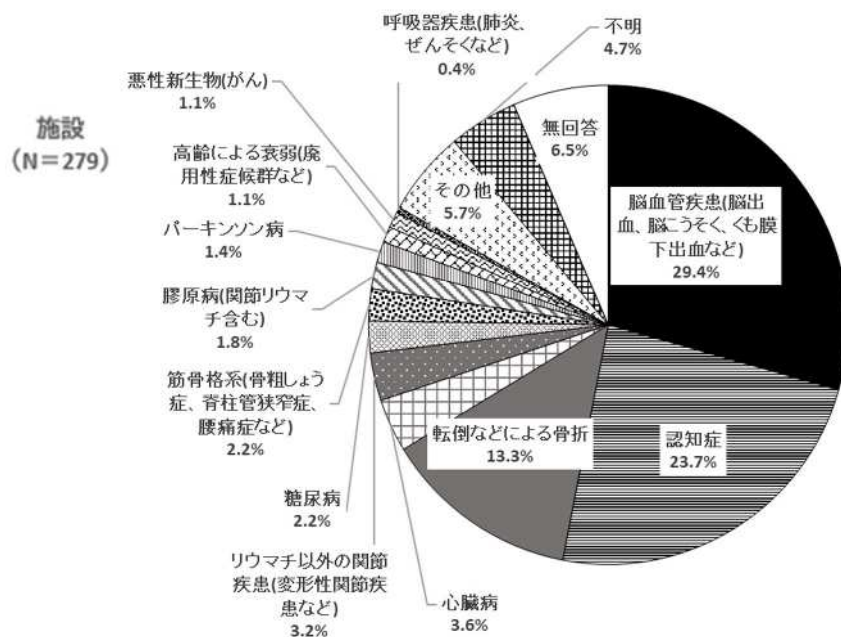
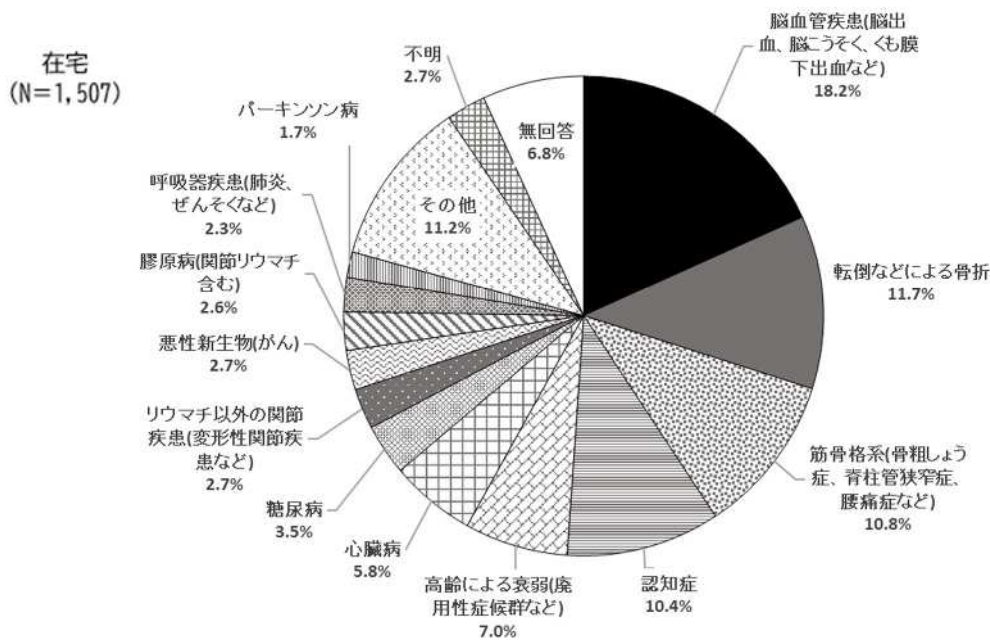
*要介護度

区分	身体の状態
要支援1	社会的支援を部分的に必要とする状態
要支援2	社会的支援を必要とする状態
要介護1	心身の状態が安定していないか、認知症などにより部分的な介護を必要とする状態
要介護2	軽度の介護を必要とする状態
要介護3	中度の介護を必要とする状態
要介護4	重度の介護を必要とする状態
要介護5	最重度の介護を必要とする状態

2. 介護が必要になった要因

対象：『在宅高齢者』『施設入所者』

介護が必要になった主な原因については、「脳血管疾患(脳出血、脳こうそく、くも膜下出血など)」が最も多く、在宅高齢者では18.2%、施設入所者では29.4%となっている。次いで、在宅高齢者では「転倒などによる骨折」が11.7%、施設入所者では「認知症」が23.7%となっている。



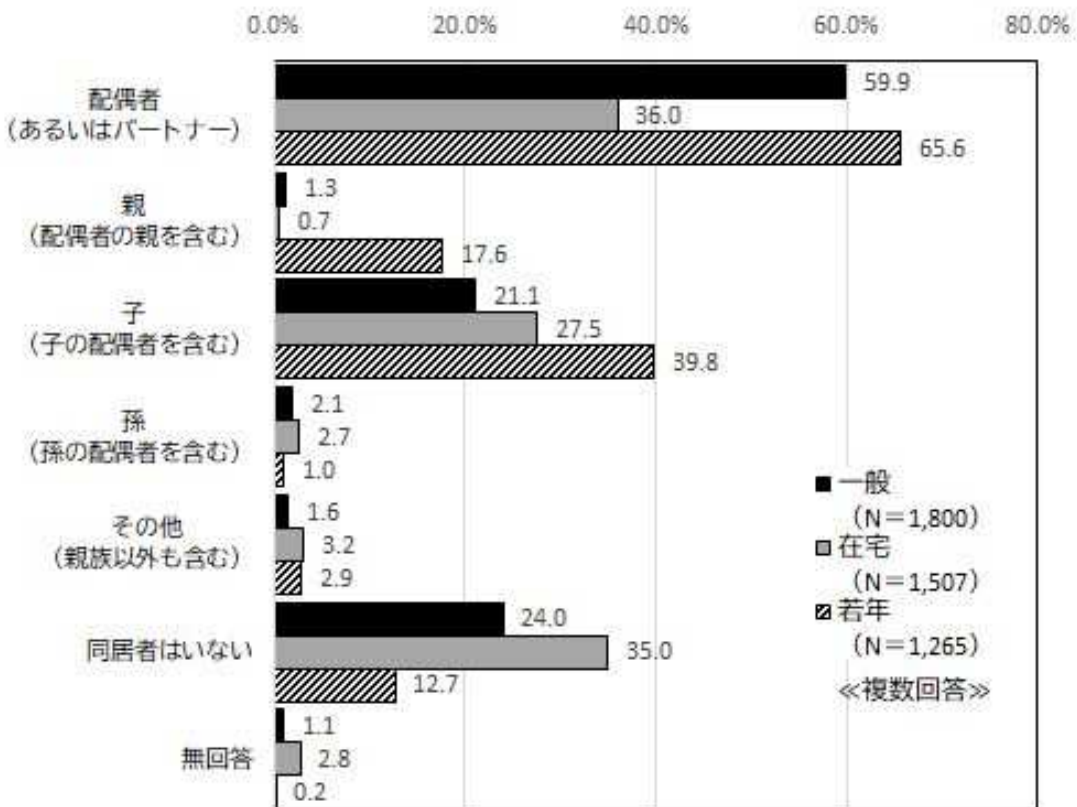
3. 同居人

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

同居人については、一般高齢者では、「配偶者（あるいはパートナー）」が59.9%と最も多く、次いで「同居者はいない」が24.0%、「子（子の配偶者を含む）」が21.1%となっている。

在宅高齢者では、「配偶者（あるいはパートナー）」が36.0%と最も多く、次いで「同居者はいない」が35.0%、「子（子の配偶者を含む）」が27.5%となっている。

若年者は、「配偶者（あるいはパートナー）」が65.6%と最も多く、次いで「子（子の配偶者を含む）」が39.8%、「親（配偶者の親を含む）」が17.6%となっている。



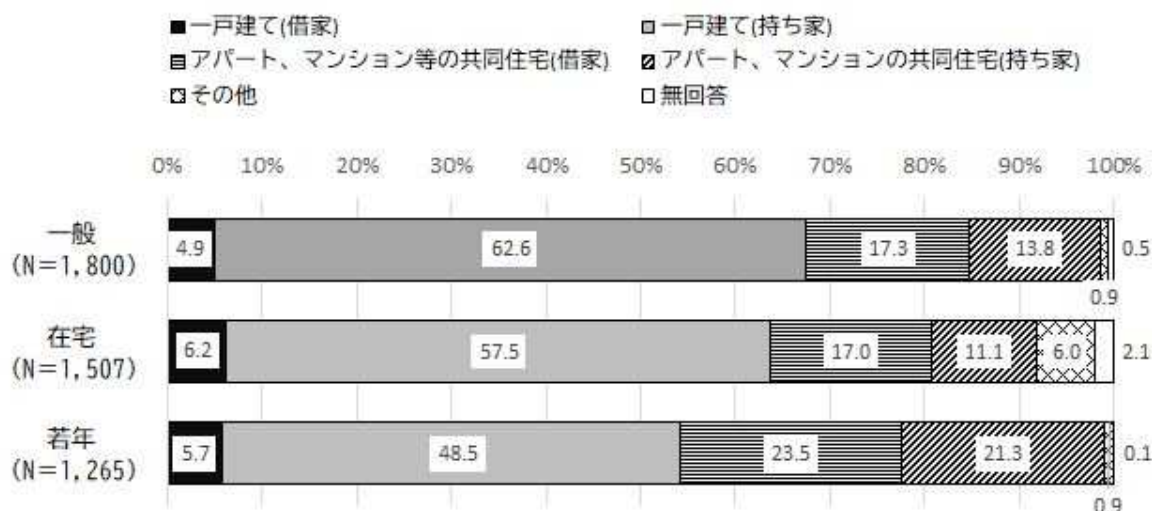
4. 住居

(1) 住居の形態

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

一般高齢者では『持ち家』（「一戸建て(持ち家)」と「アパート、マンションの共同住宅(持ち家)」の合計)は76.4%、『借家』（「一戸建て(借家)」と「アパート、マンションの共同住宅(借家)」の合計)は22.2%となっている。

在宅高齢者では『持ち家』は68.6%、『借家』は23.2%、若年者では『持ち家』は69.8%、『借家』は29.2%となっている。

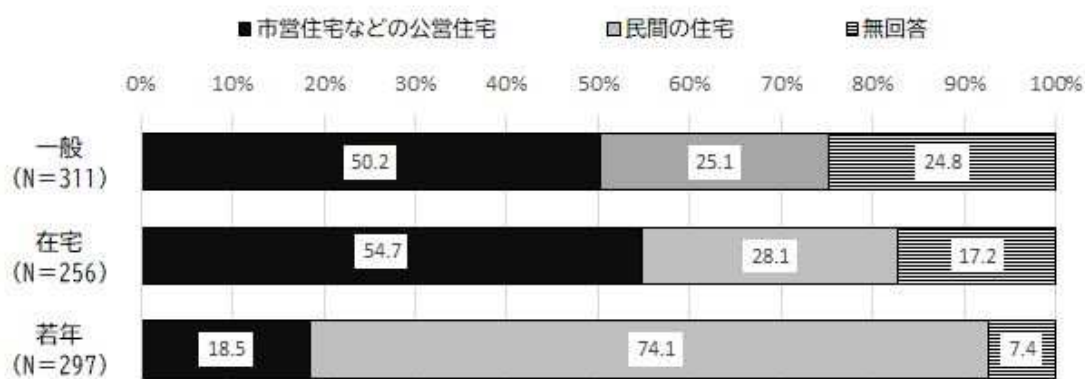


(1) - 1 共同住宅(借家)の種類

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「アパート、マンションの共同住宅(借家)に住んでいる」と回答した人に対し、公営住宅か民間の住宅か尋ねたところ、一般高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が50.2%、「民間の住宅」が25.1%となっている。

在宅高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が54.7%、「民間の住宅」が28.1%となっている。若年者では「市営住宅などの公営住宅」が18.5%、「民間の住宅」が74.1%となっている。



第3章 共通設問の調査結果

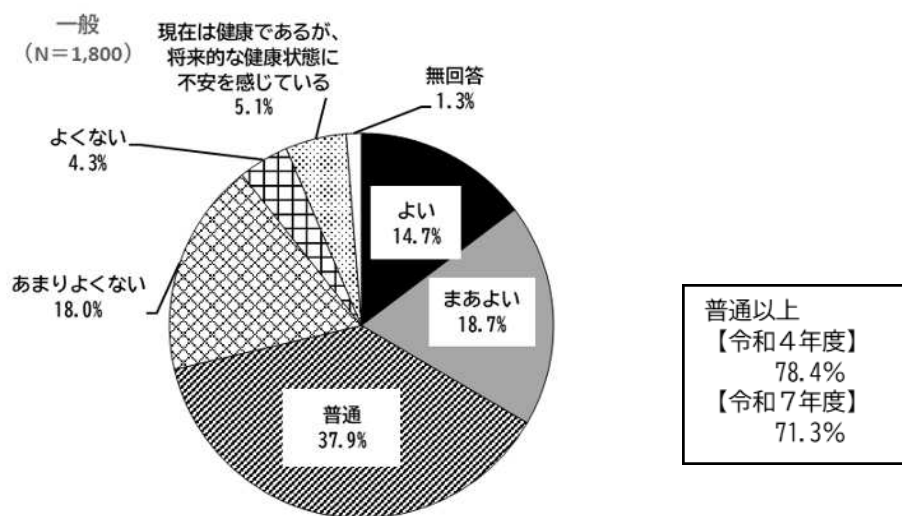
1. 健康・医療

(1) 健康状態

対象：『一般高齢者』

一般高齢者の健康状態については、「普通」が37.9%と最も多く、次いで「まあよい」が18.7%、「あまりよくない」が18.0%となっている。

普通以上（「よい」、「まあよい」、「普通」の合計）は71.3%となっている。

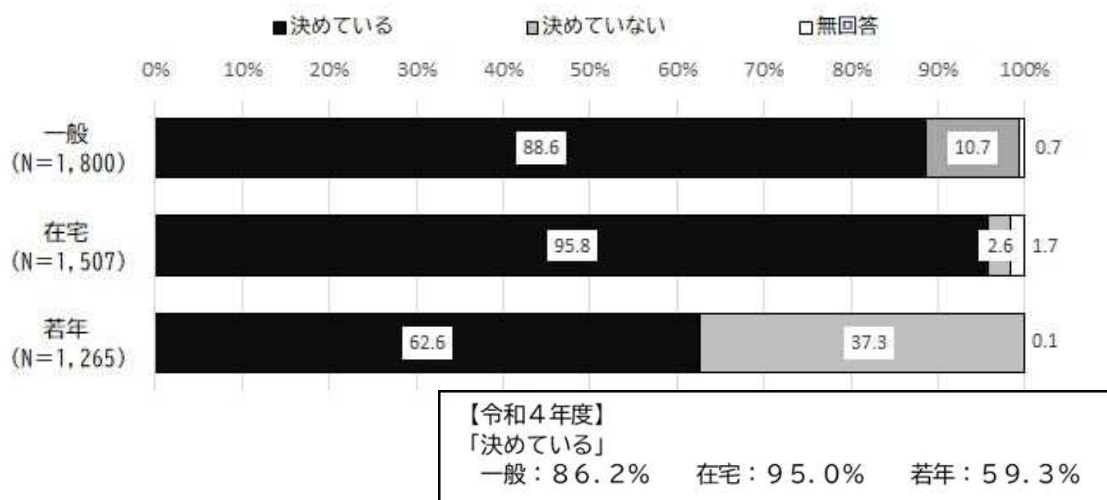


(2) かかりつけ医

対象：『一般高齢者』 『在宅高齢者』 『若年者』

かかりつけ医を「決めている」人の割合は、一般高齢者で88.6%、在宅高齢者で95.8%といずれも8割を超えている。

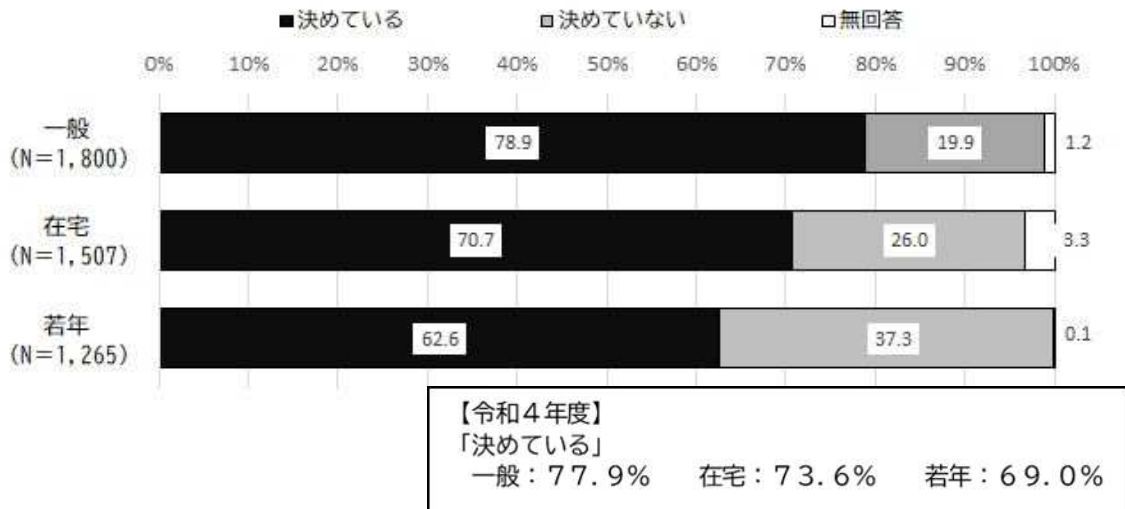
一方、若年者では、「決めている」が62.6%、「決めていない」が37.3%となっている。



(3) かかりつけ歯科医

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

かかりつけ歯科医を「決めている」人は、一般高齢者で78.9%、在宅高齢者で70.7%、若年者で62.6%となっている。



(4) 自身や家族の「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

救急搬送の際や入院した際、新しく病院にかかった際に「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるかについて、一般高齢者、在宅高齢者では「自分自身も家族についても、間違いなく説明できる」が最も多く、一般高齢者で50.6%、在宅高齢者で35.4%となっている。

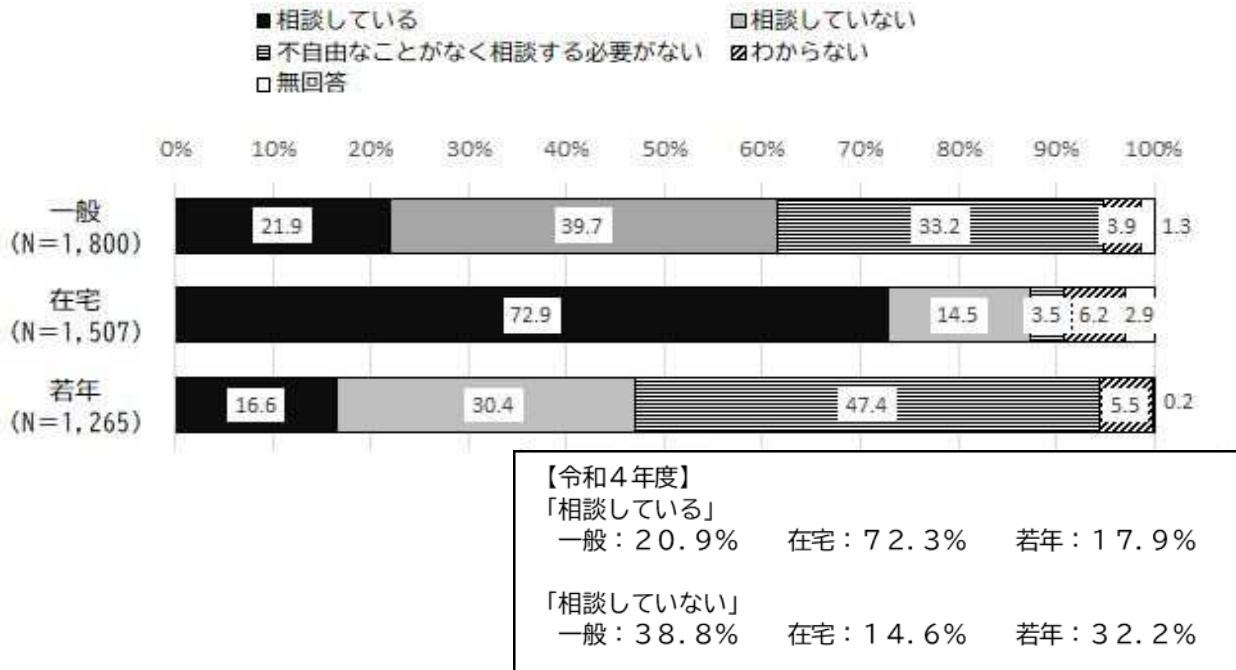
若年者では「自分自身も家族についても、説明にやや不安がある」が最も多く、49.1%となっている。



(5) 日常生活に不自由さが生じた場合、医療・介護関係者に相談しているか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

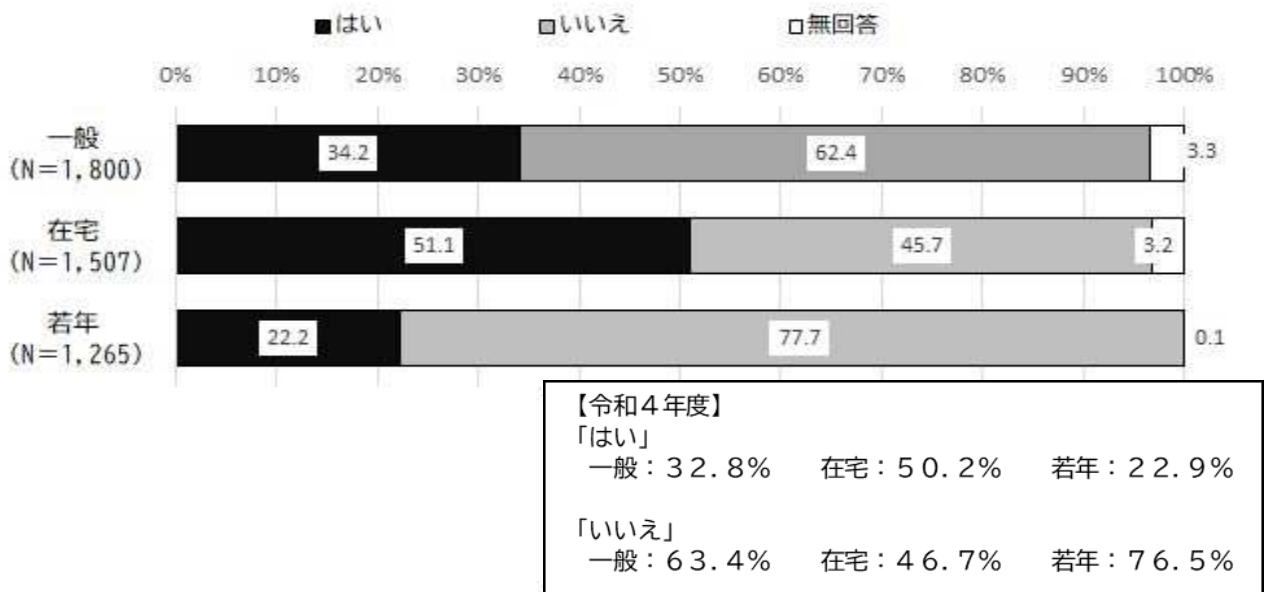
心身の機能低下により、日常生活に不自由さが生じた場合、リハビリテーションについて医療・介護関係者に相談しているか尋ねたところ、一般高齢者では「相談していない」が39.7%、在宅高齢者では「相談している」が72.9%、若年者では「不自由なことがなく相談する必要がない」が47.4%と最も多くなっている。



(6) 日頃から信頼できる人と人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）をしているか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

日頃から信頼できる人と人生会議（ACP）をしている人は、一般高齢者で34.2%、在宅高齢者で51.1%、若年者で22.2%となっている。



☆人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）とは☆

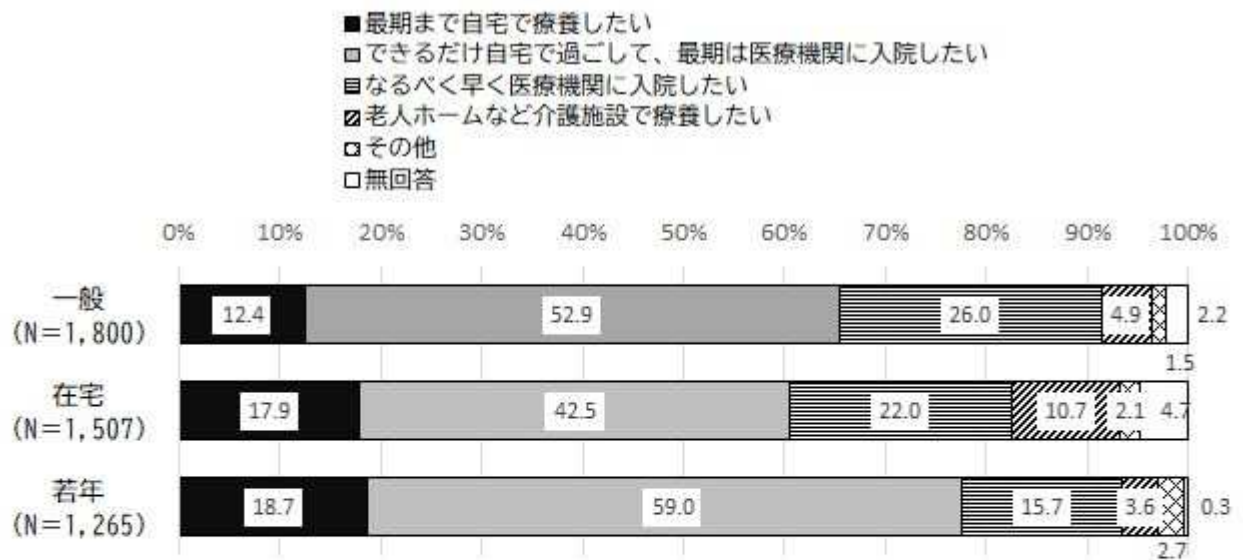
もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組。

(7) 余命 6 ヶ月と告げられた場合の治療

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

余命 6 ヶ月と告げられた場合の治療のあり方について、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多く、一般高齢者で 52.9%、在宅高齢者で 42.5%、若年者で 59.0%となっている。

次いで多い回答は、一般高齢者、在宅高齢者では「なるべく早く医療機関に入院したい」、若年者では「最期まで自宅で療養したい」であった。



【令和4年度】

「最期まで自宅で療養したい」

一般：11.8% 在宅：13.2% 若年：19.9%

「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」

一般：52.0% 在宅：43.8% 若年：58.6%

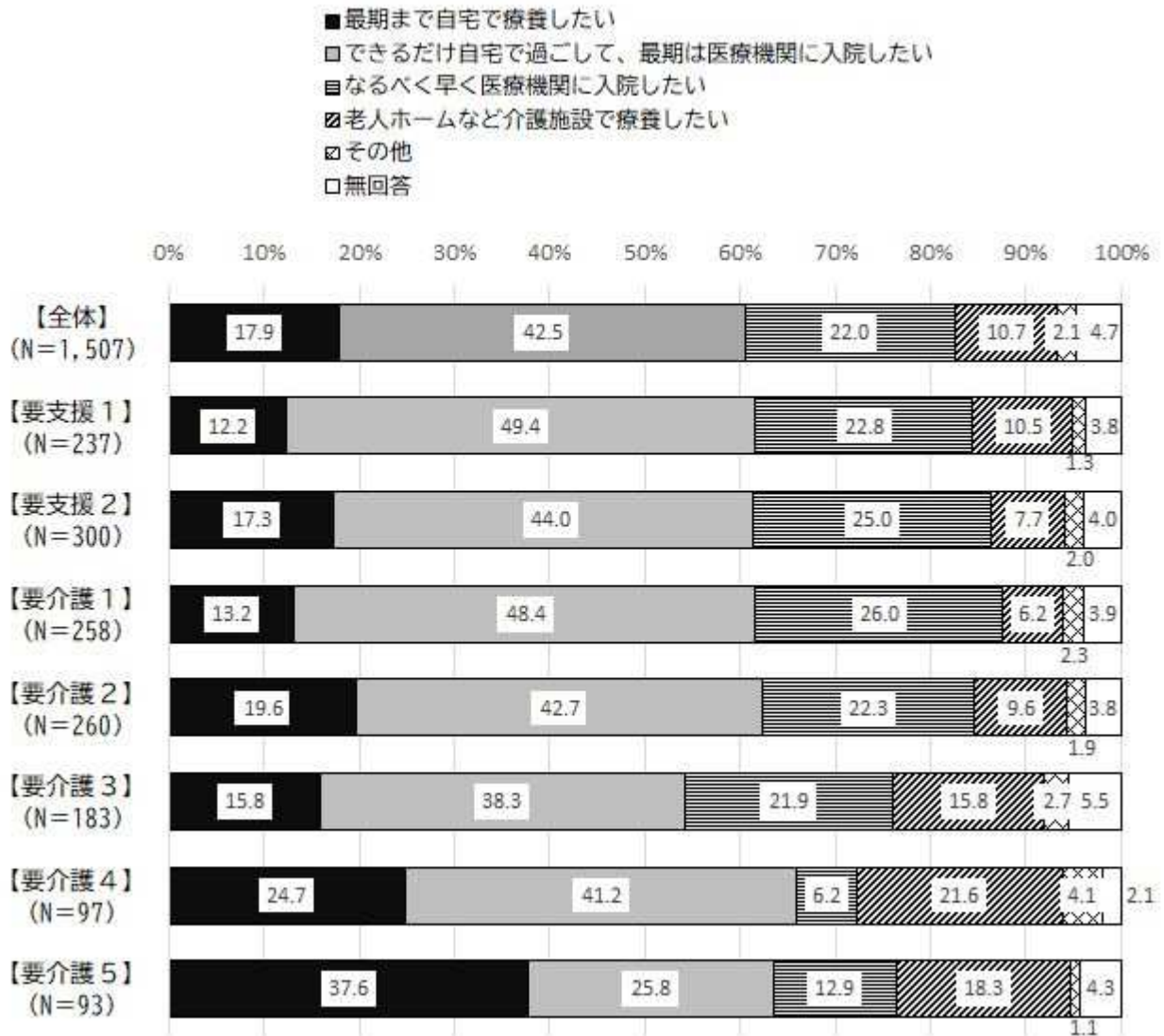
「なるべく早く医療機関に入院したい」

一般：28.3% 在宅：25.0% 若年：15.5%

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要介護5を除き「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多くなっている。要介護5では「最期まで自宅で療養したい」が最も多くなっている。

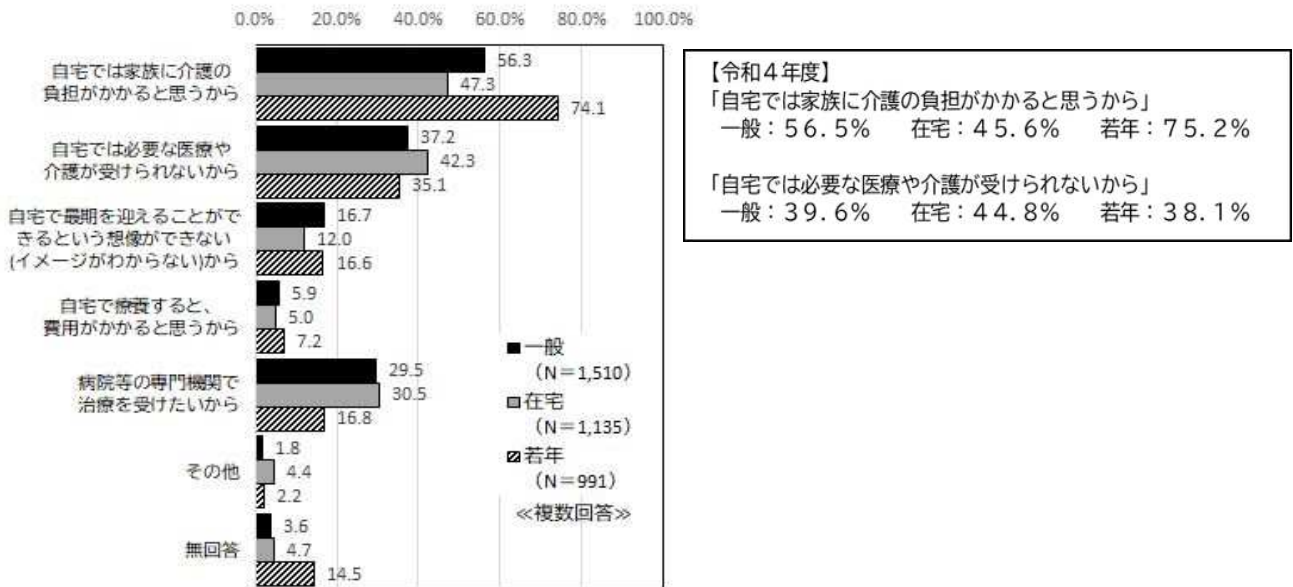
在宅高齢者（要介護度別）



(7) - 1 自宅以外の選択理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「自宅以外」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多く、次いで「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」、「病院等の専門機関で治療を受けたいから」の順となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要支援1・2、要介護1・2・4では「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多く、要介護3・5では「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」が最も多くなっている。

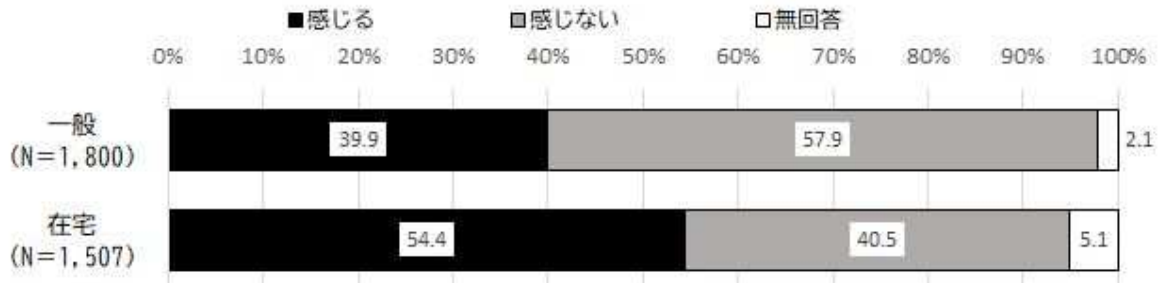
在宅高齢者（要介護度別）

	合計	自宅では家族に介護の負担がかかると思うから	自宅では必要な医療や介護が受けられないから	自宅で最期を迎えることができないという想像ができない	自宅で療養すると、費用がかかると思うから	病院等の専門機関で治療を受けたいから	その他	無回答	
全体	1,135	47.3%	42.3%	12.0%	5.0%	30.5%	4.4%	4.7%	
要介護度別	要支援1	196	49.0%	36.2%	15.8%	5.6%	30.1%	4.6%	5.6%
	要支援2	230	44.8%	36.5%	13.9%	7.0%	31.3%	4.8%	7.4%
	要介護1	208	45.2%	42.8%	8.7%	4.3%	33.7%	4.3%	3.8%
	要介護2	194	46.9%	45.4%	9.8%	4.1%	29.4%	3.1%	4.6%
	要介護3	139	46.0%	53.2%	12.2%	4.3%	33.1%	3.6%	2.9%
	要介護4	67	64.2%	49.3%	10.4%	3.0%	17.9%	4.5%	1.5%
	要介護5	53	47.2%	52.8%	13.2%	5.7%	24.5%	5.7%	3.8%

(8) 聞こえづらさ

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

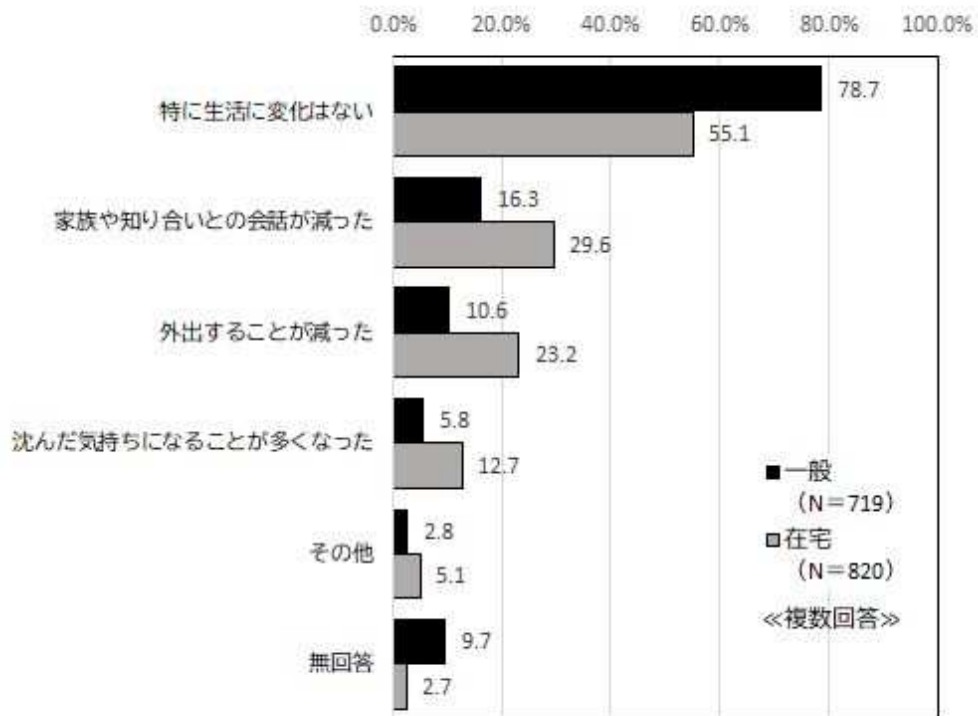
日常生活において、会話やテレビの音が聞こえづらいと感じるかと尋ねたところ、「感じる」の割合は一般高齢者で39.9%、在宅高齢者で54.4%となっている。



(8) - 1 聞こえづらさによる生活の変化

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

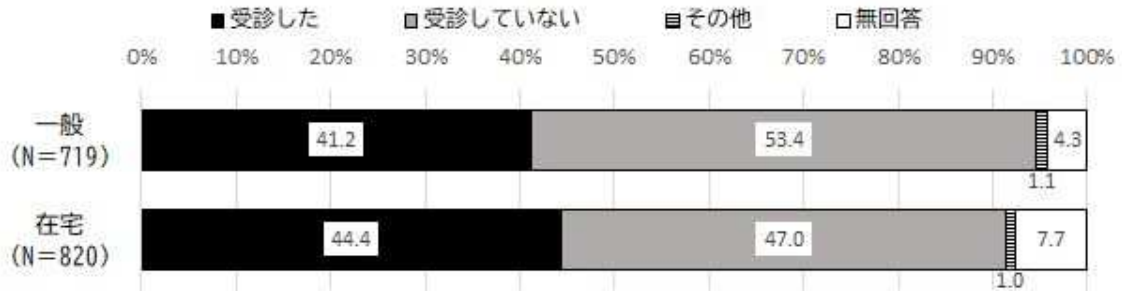
「会話やテレビの音が聞こえづらいと感じる」と回答した人に対し、生活の変化があったか尋ねたところ、「特に生活に変化はない」が最も多く、一般高齢者で78.7%、在宅高齢者で55.1%となっている。次いで「家族や知り合いとの会話が減った」が一般高齢者で16.3%、在宅高齢者で29.6%、「外出することが減った」が一般高齢者で10.6%、在宅高齢者で23.2%となっている。



(8) - 2 病院(耳鼻咽喉科など)受診の有無

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

「会話やテレビの音が聞こえづらいつ感じる」と回答した人に対し、病院(耳鼻咽喉科など)を受診したことがあるか尋ねたところ、「受診した」の割合は一般高齢者で41.2%、在宅高齢者で44.4%となっている。



(8) - 3 病院(耳鼻咽喉科など)を受診しない理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

「病院(耳鼻咽喉科など)を受診していない」と回答した人に対し、理由を尋ねたところ、「受診するまでの必要は感じていないから」が最も多く、一般高齢者で71.9%、在宅高齢者で61.0%といずれも過半数を超えている。次いで「病院に行っても良くなれないと思ったから」が一般高齢者で11.2%、在宅高齢者で20.5%となっている。

